

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902660		
法人名	有限会社 こばやしさんち		
事業所名	グループホーム こばやしさんち		
所在地	旭川市東光16条6丁目2番19号		
自己評価作成日	平成28年5月23日	評価結果市町村受理日	平成28年7月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0172902660-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、利用者も職員も家族のような思いで接している。又、定員も6名でご家族様との関わりも密に行うことができています。
家の周りに花や果実・野菜などを植えて手入れや収穫を味わいながら、家にいるような生活をしていただいている。
散歩の時や町内の行事への参加など、ご近所の方ともオープンに付き合うことができています。
主治医との協力や足浴・運動等、薬を少なくして安眠の努力をするとともに、ターミナルケアも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに中学校や小学校がある閑静な住宅地に位置する1ユニットのグループホームである。定員が6人と小規模で、建物の造りも家庭的である。同一法人のデイサービスや小規模多機能事業所、有料老人ホームが近接しており、行事を合同で行ったり、相互に交流している。建物は居間を中心に居室が配置され、前面道路に面したベランダには花や野菜が植えられ、潤いのある雰囲気となっている。職員が利用者にも明るく親しみやすい声かけを行い、利用者も明るく応えている。職員は理念や基本方針をよく理解しており、管理者や代表者との意思疎通が行いやすい環境である。また、ケアマネジメントの面でもモニタリングやカンファレンスで介護目標に対する意識を高めている。家族の頻繁な来訪があり、家族会も年1回開催して意見を聞く体制を整えている。医療支援の面では、協力医療機関との連携体制が整っており、看取りの体制も整備して利用者や家族の意向を聞きながら過去に複数の看取りも実施している。外出支援の面では、天気の良い日は事業所周辺の散歩を行い、関連事業所の行事にも参加している。年間行事も花見や外食、日帰り温泉、冬祭り見学など多彩である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールの見える場所に掲示し、朝のミーティングや会議の際に再度確認している	簡潔な理念の他に基本方針を定め、その中に「地域の方々に支えられ、安心して暮らせる」という文言を入れ、地域密着型サービスの理念として確立している。理念を共用部分に掲示し、ミーティングで確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアでの交流や、こばやしさんち祭・町内の盆踊りに参加、日頃から散歩も行い町内の方々と関わりの機会を確保している	周辺に同一法人の関連施設があり、一体的に地域と交流している。法人のお祭りに地域の方が参加したり、ボランティアの訪問を受けている。中学生の合唱や保育園児のお遊戯の披露も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内の見学や研修の受け入れ等を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している 現在の状況や今後の予定を報告し、構成員から意見を頂いている 職員にも周知し、改善・向上に努めている	運営推進会議は2ヵ月毎に開催され、市職員や利用者家族、住民代表などが参加して防災や地域の行事を話し合っているが、主に運営報告が中心となっている。議事録を全家族に送付している。	運営推進会議で外部評価結果やその後の取り組みについても取り上げることを期待したい。また、年間を通して計画的にテーマを設定することで、より充実した会議となることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、当事業所の現状や今後の予定等を伝えている わからない部分は問い合わせしながらサービスの向上に努めている	運営推進会議に市職員の参加があり情報提供を得ている。書類の提出などで頻りに市役所に訪問し、話し合う機会を持っている。地域のグループホームケアマネ交流会でも地域包括支援センターと情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備し、ミーティングなどで介助方法を確認しながら拘束をしないケアを実施している	身体拘束を行っておらず、具体的な禁止行為を記した「身体拘束ゼロへの手引き」を用意し、ミーティングの際に内容を確認している。玄関は日中施錠せず、利用者の出入りがあれば職員がすぐ気づくことができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	常に利用者様にあった対応が出来ているかを注意しながら業務にあたっている 又、ミーティングなどでサービスを振り返りながらケアに努めている		

グループホーム こばやしさんち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングで取り上げたりしながら、資料を用いて制度についての勉強を行っている 欠席者についても資料を配布して理解していただいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・ケアマネが説明を行ったうえで契約している 又、介護保険制度等に変更があった場合は家族に説明し承諾を頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に、お話し之机を設けて意見を確認し、ミーティング等で共有している 運営推進会議についても議事録を各家族に配布している	月に2~3回、それぞれの家族の来訪があり、その際に意見を聞き、得られた意見を「支援経過」に記載して共有している。年1回、家族会を開催している。また、2ヵ月毎にホーム便りを作成し、家族に提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、GHミーティング・全体ミーティングを行い職員の発言の場や意見交換の場を設けている	毎月、グループホームのミーティングと全社的な会議があり、職員が管理者や代表者に意見や提案を言いやすい環境にある。職員は行事計画やお便り作成、食材管理などの業務を分担して担当し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与や昇給、又、期末手当を支給している 休み希望も、出来るだけ検討している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体ミーティングの際に研修も実施している 又、GHミーティングで介助方法などの統一と向上にむけての話などを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括圏域内交流会や、その他の集まりなどに参加して情報を収集している 横のつながりから助け合いながら質の向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活状況や背景などを聞き、安心して自立した生活が出来るような支援を心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との担当者会議や面談の機会を確保して、ご家族の思いや希望を聞き取り、サービスにつなげている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・ご本人も踏まえて、現在の生活状況・ADLをアセスメントしている 長期・短期目標を設定して必要な支援を行うように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜刻みや盛り付けなど調理を楽しみながら助け合いながら生活できるような関わりを努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所は比較的多く日常の様子を伝えたり、必要時には相談に乗っていただいている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご兄弟・出生地等、折に触れてたずねるように努めている	友人や知人の来訪は減っているが、利用者が前にいた同一法人のデイサービスに出掛け、友人と交流することができている。2名の方は馴染みの美容室に通っている。書道や編み物などの趣味を継続している方や、家族と一緒に外食に出掛ける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴等から会話も一方通行になり孤立しがちな方もいるが、顔を見合わせられるホールで過ごし関わり合いの機会を作っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族からの相談やお礼をいただいたりしている その際に、現在の近況などを聞くようにしている 又、転居先への情報提供や入院先に面会に行ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念を基本として、過去の本人の生活環境や希望を踏まえてケアプランに反映させ、日々従業員も確認しながら支援している できるだけ本人の意向に沿った支援に努めている	ほとんどの利用者は思いや意向を表現でき、難しい場合も過去の経験などから把握している。基本情報シートを整備しているが、暮らし方の希望や趣味、嗜好などの情報の共有は十分といえない。	個々の利用者の暮らし方の希望や嗜好などを継続的に把握し共有できるような情報シートの整備を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ミーティングを通じて情報を共有し、又、日常的にも経過を報告できる環境に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活のなかで、関わり・表情・言葉・態度などを見ながら、把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、ミーティングで共有しながら意見交換などを行っている	介護計画を3～6ヵ月毎に見直し作成している。介護計画に沿って毎月モニタリングを行い、3ヵ月毎のカンファレンスで見直し内容を話し合っている。個人記録の様式に計画目標を予め記載し、目標項目を意識しながら記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に沿って記録を記入し、申し送りなどで共有しながら計画の見直しにつなげている 又、日々の生活の中で出た情報も職員間で共有し見直しなどにつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町内の行事やこばやしさんちの他部署の行事に参加し、形にとらわれずにサービスを提供している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事に参加し、又、日々の散歩や畑仕事など不十分などの支援をさせていただきながら生活を楽しくいただいている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が理事の為、すぐに連絡が取れる体制にある 又、住宅が向かいの為緊急時の対応もスムーズに行える	協力医療機関による月2回の往診があり、利用者全員が受診している。その他の通院は家族対応としているが、難しい場合は事業所で送迎している。受診内容の記録について、記録様式の改善を進めている。	

グループホーム こばやしさんち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	知り得た情報は職員間で共有し、迅速にNsに報告している 指示を受け、現場で統一して支援をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはGHでの生活状況・基本情報を家族の許可を得て提供している 入院中・退院時など病院SW・Nsなどと連絡を取り合い情報収集 又、退院後の過ごし方も含め相談している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に当GHでの終末期の対応の方法を説明している 状況が変化してきたときに、その都度対応方法を説明し家族の意向と合わせて同意書を頂いている	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針内容」を説明し、同意書に署名捺印を得ている。過去に3人以上の看取りを行っており、医療機関との連携体制を整え、事業所でできる範囲の支援を行う方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時には、管理者やNsに連絡を取り指示を受けて対応している 対応方法も掲示し周知に努めているが、訓練を定期的には実施しているとはいえない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している 又、災害訓練も実施していく	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っているが、最近では地域の方の参加が得られていない。職員の救急救命訓練を計画的に進め、災害時に必要な備蓄品の準備も行っている。	運営推進会議を活用したり、幅広く声かけを行うことで避難訓練に地域の方の参加得られるよう期待したい。また、参加が得られた際は地域の方の役割を明確に示し、協力を得ることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の個性を尊重して対応している 理念に基づいてプライバシーに配慮しながら対応している	利用者には「～さん」と統一して呼んでいる。職員の気になる言葉かけがあれば全体ミーティングで指導している。パット類は各居室に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設側からのサービスの強要にならないように本人に意思決定を促しながら支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のこれまでの生活スタイルを念頭に置いて、業務優先にならないように本人と相談しながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は好みのシャンプーで洗髪し、洗顔後にはクリームをつけるなど、それぞれの身だしなみができるように支援している		

グループホーム こばやしさんち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理補助や盛り付けなど、皆でテーブルを囲んで実施するように心掛けている 又、嫌いなものは別に変更するなどして食事を楽しんで頂いている	食材とメニューは業者から配達されるが、誕生日や季節ごとに希望の食事を提供している。職員は食事介助に専念しているが、今後は利用者と同じ食事を一緒に摂ることを検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往歴を踏まえううえで、水分摂取量や食事摂取量を記録して状態に合わせて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促している 自力で出来る方はご本人で実施して頂き、必要に応じて介助する		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェックを行い、ご利用者様の状態に応じて声掛けや誘導を実施している 困難な場合は介助も行っている	全員の水分排泄記録に毎日の水分摂取量と排泄の記録をつけている。時間や様子を見ながら声かけ誘導し、トイレで自然排泄ができるよう対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩を実施して腸内運動を高めるとともに、下剤を使用しながら排便コントロールを行っている 排便の状態はチェック表で管理・把握している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	限られた職員の中で希望にすべて対応出来ない場合もあるが、清潔を保ち感染を予防できるように支援している 入浴は、週2回実施している	基本は毎週月曜日と木曜日にほぼ全員が入浴をしているが、利用者により当日に入浴が難しい場合は清拭で衛生保持をしている。毎年恒例の花神楽(温泉)に出かける事でも入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態を把握しながら、就寝前に足浴を実施してから入眠を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬情報をファイルに綴じ、すぐに確認できるようにしている 服薬の状況の変化があれば記録して日々情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カルチャーの提供や、日々の生活の中で利用者様の役割を見つけて、その支援ができるように心掛けている		

グループホーム こばやしさんち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりに対応は難しい面もあるが、施設の外出計画の中で努力している また、家族様の協力も得られている	天気の良い日は近隣の公園や町内を散歩したり、ベランダに出て花や野菜、果実の生育を見ながらお茶を飲んでいる。ショッピングセンターに出かけたりキトウシ森林公園に桜や七夕祭り見物に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかい程度を手持ちとして自分で買い物できる場面を作っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合は電話に対する支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に季節を感じさせる紙で作った花などに飾ったり、天気の良い日はベランダに出て季節感を味わっていただいている	ピンク色のタイルカーペット敷きの明るい居室には生花を飾り、利用者の作品や習字を展示し、エアコン、加湿器、空気清浄機が用意されて適温適湿に管理されている。訪問時も利用者のリクエストで職員のキーボード演奏に合わせて歌っており、家庭的で和やかさが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普通の住宅のようなGHなので、狭い場所ではあるが自分の居場所を見つけることができている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様の写真やご自分の馴染みのタンス等を使用していただき、馴染んでいただける生活を支援している	居室には、カーテン、照明器具、暖房機が備え付けられている。入居前から使い慣れたタンスや物品を持ち込み、安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り調理の準備や掃除の一部、洗濯物たたみや趣味などできることを引き出して工夫している		

目標達成計画

事業所名 グループホーム こばやしさんち

作成日：平成 28年 6月 30日

市町村受理日：平成 28年 7月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議で外部評価結果やその後の取り組みについても取り上げることを期待したい。また、年間を通して計画的にテーマを設定することで、より充実した会議となることを期待したい。	運営推進会議で外部評価の報告をし、記録にも残す。又、テーマを設定し意見交換ができる。	案内でテーマをお伝えし、会議の際に構成員の方々と有意義な話し合いを進めることができるようにする。	3ヶ月
2	23	個々の利用者の暮らし方の希望や嗜好などを継続的に把握し共有できるような情報シートの整備を期待したい。	個人の思い・希望・趣味・嗜好などを職員で共有できる様にシートを作成し記載する。	興味・関心チェックシートや心身の情報(私の姿と気持ちシート)の作成に取り組む。	6ヶ月
3	35	運営推進会議を活用したり、幅広く声かけを行うことで避難訓練に地域の方の参加を得られるよう期待したい。また、参加が得られた際は地域の方の役割を明確に示し、協力を得ることを期待したい。	2回に1回は地域の方を交えての訓練を実施する。	事前に協力を得て、訓練の参加をお願いする。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。